

「新しい定時制高校創設プロジェクト」第3回有識者会議 会議概要

- 1 日 時 平成27年6月15日 月曜日
開会 10時00分 閉会 11時30分
- 2 場 所 京都市総合教育センター 第2研修室
- 3 会議メンバー (有識者) 竹田契一氏, 宇都宮誠氏, 伊藤一雄氏, 水野篤夫氏, 前田敏也氏
(冒頭挨拶) 大黒教育委員会指導部担当部長
(プロジェクト委員) 西田委員, 村上委員, 田中委員, 鳥羽委員, 辻浦委員, 山本委員, 中塚委員, 佐倉委員, 畑委員, 吉武委員, 谷口委員, 西村委員
- 4 傍聴者 7人
- 5 会議の概要
 - (1) 冒頭挨拶 (教育委員会 大黒指導部担当部長)
 - (2) 有識者紹介 (教育委員会)
 - (3) 市民募集結果及び「まとめ(案)」に関する事務局説明・協議
 - ア 説明 (教育委員会)
配布資料「資料2」「新しい定時制高校創設プロジェクト」まとめ(案)に対する市民意見募集の結果について」「資料4」市民意見募集結果を反映した「まとめ(案)」本冊」により説明
 - イ 主な意見 (○は有識者, ●はプロジェクト委員)
 - 「まとめ(案)」の趣旨に改めて賛同する。専用校舎を備えた定時制単独高校の創設は、定時制教育に関わる者が長年希望していたことである。
 - キャリア教育に関しては、中教審の答申(平成23年1月31日)にあるように、小学校から大学の各段階において、社会への円滑な移行を行い、社会人として自立していくために必要な能力や態度を育成することが目的であるが、そうした能力を育成するには、職業教育の充実が非常に重要だと考える。新設校においても職業教育をカリキュラムに組み入れ、生徒の社会的自立を支援していただきたい。また、そういったカリキュラムに対応できる施設整備も必要である。
 - 今の学校では、様々な課題を抱える生徒が多数いる。新設校では、若手も含めた幅広い年齢層の教員を配置し、そうした生徒に対応いただきたい。バランスのとれた教員体制を作ることによってカリキュラムが初めて活きる。

- 新設校では、総合支援学校との交流を行い、特別支援教育を専門分野とする教員を配置することが必要であり、他校種との人事交流も積極的に行っていただきたい。
- 中学校現場としては、多様な背景を持つ生徒に対する学習保障を行う「学びの場の確保」という役割を担っていただくことを切実に要望する。一生懸命、勉学に取り組もうとする生徒を救っていただきたい。今春開校した清明高校には、本市立中学校からも多数の不合格者がいるが、その進路先については、通信制に進学した生徒の割合が多いと聞いている。こうした状況の中、新設校で通信制の併設について検討いただいていることは生徒の進路保障を行ううえで大変有意義なこと。通信制から定時制、その逆も含めた転科を可能とするなど、柔軟な対応を検討いただき、多様なニーズに対応できる学校を早急に創設いただきたい。
- 「まとめ（案）」にある「Ⅲ 新設校の基本的な枠組み」内の「(6)外部の教育力も視野に入れたキャリア教育のあり方」の内容について、アルバイトをすることが社会と接続されるうえで必要であるのは重々理解しているが、生徒によって目的が様々であることや、また、課題を抱える生徒が面接でつまずき、アルバイト先が見つからないケースもあると聞いている。
 学校が企業と生徒の間を仲介する形でアルバイト先を紹介するなど、外部連携をより一層強化する取組を検討してはどうか。加えて、キャリア教育に対してより積極的に取り組む姿勢を示す意味でも、学校が企業に生徒受入を働きかけ、卒業後の正規採用につなげる「インターン」や「ボランティア活動」などの文言を「まとめ（案）」に追加してはどうか。生徒に様々な経験を積ませることを学校が推奨することで、多様なニーズを持つ生徒に対応いただきたい。
- 外部との連携という点においては、「多様化した生徒に対応することを考えると、学校現場だけではなく、学校がこれまで培ってきた実践力と外部機関の力を連携させ、共に生徒一人一人に合わせた教育活動を展開する」といった趣旨を強調してほしい。
- 「まとめ（案）」の内容を踏まえ、素晴らしい新設校を創設されることを期待する。
- 「引きこもり傾向」にある生徒の多くは、人と関わるのが極端に少ないまま成長していく傾向にある。新設校では、そうした生徒が「人と関わることの重要性」を認識できるような教育活動を展開いただきたい。また、「引きこもり傾向」にある生徒は、選考の段階で本人の意志をしっかり把握するとともに、保護者の理解だけでなく共に学ぶ姿勢が不可欠である。
- 「まとめ（案）」に記載されているような支援を行う学校では、一番大変になるのは教員である。現場の教員の意見をしっかりと反映し、「新設校を自分たちが作っていく」と自負できるように、今後とも現場と検討を重ねていただきたい。

- 市民意見募集で寄せられているような、「熱意と意欲を持った素晴らしい教職員を配置し、未来ある子どもたちが社会に羽ばたくことのできる学校」が実現できれば理想的である。新設校が「まとめ（案）」の内容を実現することができれば、日本の定時制教育の新たなモデルになる。実現させるためにも、一番大切なのは、やはり人材である。今後、他校種との人事交流も含めて、新設校の中心となる「熱意溢れる人材」を配置し、情熱を持って教育実践に取り組んでいただきたい。
- 「まとめ（案）」には、「学び直し」の文言が多数見られるが、個々の生徒に応じてきめ細かい指導を実践できる教員が多いほど、一人一人の子どもに寄り添った学習保障ができる学校となる。当たり前のことではあるが、そうした学習保障をしっかりと行うことが、卒業後の就労にも繋がり、真の「学び直し」に結びつくと考える。そういった学校であってほしい。
- 「学び直し」を求める生徒には、保護者が生活指導を学校に丸投げしているため、基本的なソーシャルスキルが不足していたり、対人関係に苦手意識を持っている生徒が多く、本人が悩みを抱えていることに、周りの者が理解していない傾向にある。特別支援教育を専門分野とする人材を活用して、そうした生徒がどの段階でつまづくかを把握することが必要である。
- 課題を抱える生徒に対しては、前年度の担当者から把握している情報を引き継ぎ、指導に活かすことが大切。特に発達障害等を抱え、認知に偏りを持った生徒については、個別のノウハウの積み重ねが重要であり、自らの指導方法を貫くだけでなく、柔軟さを持って丁寧できめ細かい指導ができる教員を配置してほしい。
- 社会に出る際に基本的な素養を身に付けさせるためにも、「まとめ（案）」にある「将来を見据えた生活習慣の確立」に真剣に取り組むとともに、そうした指導を行うことのできる教員が必要と考える。
- 定時制には倦怠学傾向にある生徒が志願する場合もあるが、そうした生徒に対してもきめ細かい対応をとることで、将来、社会で自立できる人材となる。定時制に進学している生徒に対してそうした指導を徹底するためには、少人数教育を展開することが欠かせない条件である。
- 学校で働く教員の思いを一つにすることが何よりも重要。現在も様々な課題を抱える生徒と日々接しているが、生徒と人間関係を築くことが困難な場合もある。特に、定時制では、個々の生徒の状況に応じた指導が不可欠であり、心情や背景を理解しようとする姿勢を持つことが非常に大切。是非とも新設校では熱意ある教員に集まっていただき、教育活動を展開していきたいが、そうした教員は各校の中心であるケースも多く、若手の育成が今後の課題と考える。

- 今年度、特別支援教育のアドバイザーを2名配置いただき、様々な観点から指導法に関する助言をいただいている。新設校でもこうした特別支援教育を専門とする教員は必要であり、生徒の心に寄り添うことのできる学校体制の構築目指していきたい。

- 新設校の開校当初は志願者が多くなると思うが、従来と同じ選抜を行っていたのでは、本来的に定時制教育を求める生徒が入学できない可能性がある。現行制度の下で制限があるかと思うが、新しい選抜方法を検討いただく必要があるのではないか。
- 単に成績順で入学者を決定するのではなく、大学のAO入試のような選考方法や海外の大学にあるように社会性が身に付いていない生徒を優先的に入学させるような、新設校の趣旨に合致した多様な選抜方法を検討いただきたい。
- 本来的に定時制教育を求める生徒が入学できないことは、高校側としても不本意であると考えている。そうしたことの無いよう、選抜方法についても、今後検討していく。
- 市立総合支援学校では、個別相談や見学・体験などを複数回実施するなど、市立中学校とも連携するシステムが構築されている。新設校の新たな選抜制度の検討についても、市立中との連携を図り生徒情報や個別の指導計画を共有できるような方法を検討していきたい。

- 人事交流については、新設校だけではなく、全体のバランスも考慮することが必要となるが、特に新設校においては、教員の年齢構成を考慮するだけでなく、特別支援教育を専門分野とする教員を配置していくことは必要であると考えている。

(4) 閉会挨拶（教育委員会 畑学校指導課担当課長）